

支 援

授業にゲストティーチャー・外部講師をお招きすることはさまざまなメリットがあります。そのメリットとは、まず、子供たちの関心や意欲を喚起するという点、次に、専門知識・技能を学ぶことができ、キャリア教育にもつながること、そして、個別指導や少人数指導によってきめ細かい指導が可能となることです。市内で行われた外部講師による授業を取材してきましたので、ご報告します。

町田第五小学校2年 3・4校時 「学芸会に向けて発声教室」 10/3



10月3日は、町田第五小学校の学校公開日。2年生3クラスは合同で「地域の名人とともに学芸会を目指す発声教室」を行いました。ゲストティーチャーとして、劇団「かわせみ座」の津崎さんほか団員の皆さん、そして、玉川学園在住の俳優・声優の太田さんが指導にあたりました。

はじめに、太田さんの全体指導がありました。「おはよう」の言葉を子供たちに言わせることからスタートです。担任の先生の方を向いて、「おはようございます」としっかり言えたので褒められ、出だし好調の子供たちでした。続いて「窓から来たトビウオ」を全員で読んでから、太田さんの読みのお手本を聞くことができました。

次に、津崎さんにバトンタッチしました。体をほぐす運動から入り、表情をつけながら「いっひっひ うっふっふぶっふっふ・・・」と発声練習が始まりました。腹式呼吸の大切さやその方法を学びます。発声のイロハを教わって、次のステップに進む準備が整ったところでいったん休憩。4校時は、6人の講師がそれぞれの持ち味を活かしながら、グループに分かれた子供たちに「風の子の歌」等を指導していきました。学芸会本番に向けて、自信とやる気がうまれる授業となりました。

鶴川第三小学校4年 2校時 「薬師池について」 9/30

社会科副読本「わたしたちの町田」の中には地域の発展につくした人々のことが書かれていて、「薬師池公園」がとりあげられています。「郷土史家をまねいてお話を聞く」活動も期待されているので、そのような機会があれば参観取材をしたいと考えていました。折りよく、鶴川第三小学校の4年生が「薬師池」の学習にあたって、ゲストティーチャーをお呼びすることになったとの情報を得ました。9月30日、鶴川第三小学校の4年生はガイドボ



ランティアの安藤さんをお招きして薬師池についての事前学習が行われました。今の薬師池と鶴見川の間にある田は日当たりが良く稲作に適した場所でしたが、わき水だけでは水が足りず、16世紀後半に10余年かけて薬師池をつくったこと、その際に武藤半六郎という人が村のまとめ役として貢献したこと、富士山の噴火で薬師池が火山灰で埋まったことなど、安藤さんの大きな声と歯切れのよい口調、そして、ご自身で描かれた絵地図を使って、薬師池の学習が進められました。10月末には安藤さんのガイドのもとに薬師池公園の現地学習を行うことになっています。

卸売市場に従事されている方をゲストティーチャーにお招きして、水産業や流通、さらにはキャリア教育にもつながる授業を参観取材させていただきました。ゲストティーチャーは、**横浜市中央卸売市場/横浜魚市場卸協同組合理事**の坪倉氏です。

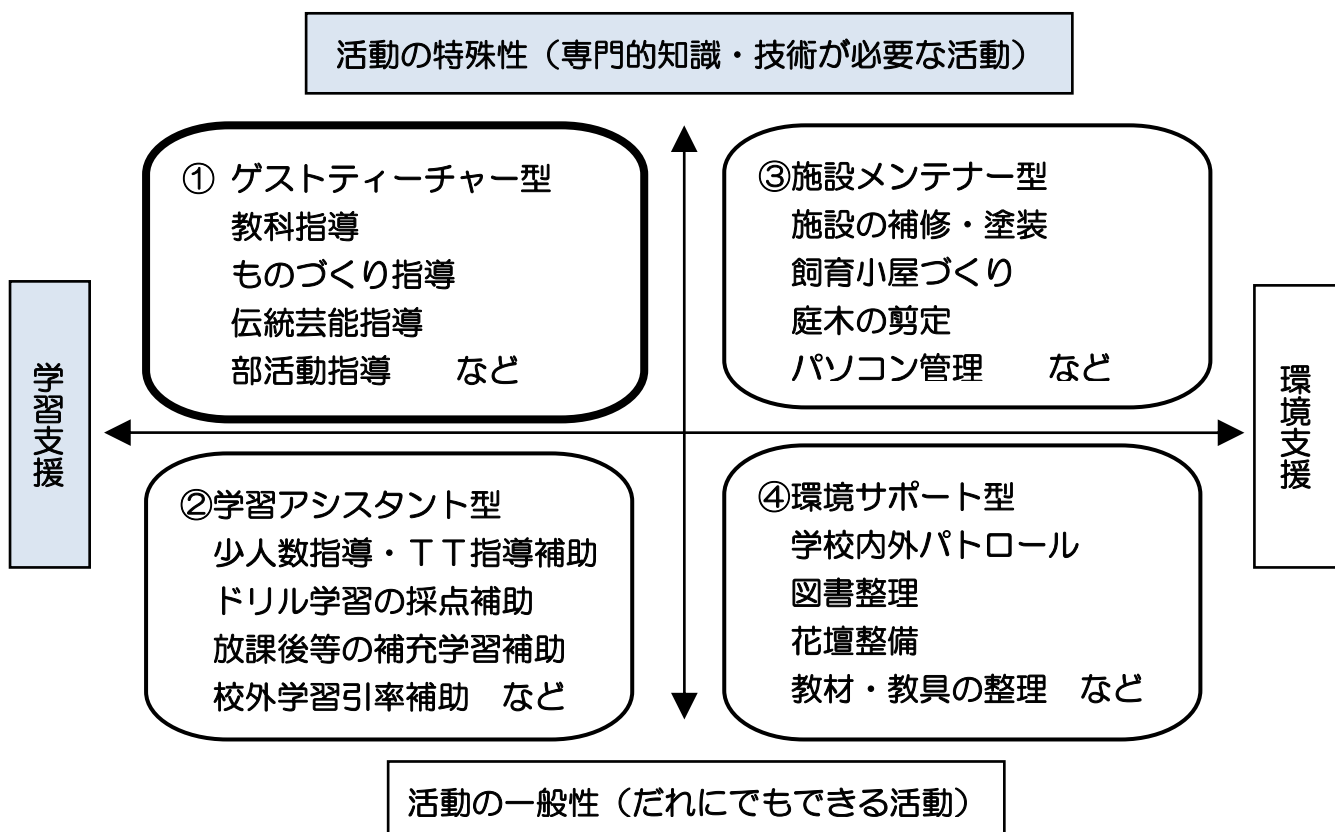


はじめに横浜市中央卸売市場の概要についてビデオによる説明がありました。過去20年間で、横浜市場水産物部の取扱数量が20万tから7千tに、金額は1580億円から616億円に60%以上減少したこと、この背景には、食生活の変化と魚食消費の減少、水産物流通の変化と大規模小売・チェーン飲食店の増加など、外部環境の構造的な変動があるとのこと。まぐろの目利きは「尾」を見て行うこと、日々の入荷量、「乾物屋」「一般食料品店」「魚屋」が激減していること、

一方でコンビニエンスストアやスーパーマーケットが増加していることを数字で示され、流通業の変化を理解できたようでした。

お話の中には、厳しい現状を切り開くための苦労や工夫、ビジョンや方策などもあり、児童にとって「仕事とは?」「経営とは?」を考える機会にもなったことでしょう。

Q&Aコーナー 学校支援ボランティアにはどんなタイプがあるのでしょうか?



小山小学校 研究発表会 ゲストティーチャーに学ぶ 10/16

小山小学校は、「地域に学び、地域に生きる小山っ子」を研究テーマに掲げ、2013・2014年度 町田市教育委員会の研究推進校として研究を進めてきました。日頃から学区域の豊かな人材や自然などを学校の力にしようと努めている小山小の研究発表ということで、多数の参観者がありました。それぞれの学年で、地域との協働を活かした学習活動や考える力を育てる支援を工夫しながら、授業が行われました。

同校の4年生は、学校近くの片所谷戸（かたそやと）で見られる動植物について、「ホタルを守る会」や地域有識者、理科教員をゲストティーチャーとしてお招きして、お話を聞いたり質問をしたりしました。

地域に残っている「ホシザクラ」やわき水で育つホタルが地域の貴重な財産であることを学びました。



伝言板

◇2014年度 町田市学校支援ボランティアの感謝状贈呈候補者等の推薦について

10月の校長会で依頼した件ですが、あらためて各校からのご推薦よろしくお願ひします。推薦書の提出期限は、11月17日（月）必着。提出先は指導課・町田市学校支援センター（親展扱い）です。

◇教育支援コーディネーター・フォーラム

今回で8回目となる東京都教育委員会主催の教育支援コーディネーター・フォーラムのご案内を同封しました。参加対象は、行政担当者、教員、VC、学校支援ボランティアとなります。参加費は無料。町田市学校支援センターで一括して東京都に申込みます。

日時 12月14日（日）10：15～16：00

会場 東京都庁第一本庁舎「大会議場」ほか

第1部 全体会 10：15～12：30

教育支援コーディネーターと企業・団体との交流

第2部 分科会 13：30～16：00

分科会Ⅰ 「『授業支援』を担うコーディネーターのための“調整力” 交渉力”アップ講座」

分科会Ⅱ 「放課後等の子供たちの学習・体験・交流活動をより豊かにしていくために」

参加を希望される方は、11月24（月）までに町田市学校支援センターにお申し込みください。

VC活動日誌・活動月報について

10月20日に東京都教育庁主催「平成26年度学校支援ボランティア推進協議担当者連絡会」が行われました。その中で、12月中に本事業の国の監査が予定されているとの連絡がありました。町田市に監査があったとしても十分堪えうるように整えているつもりですが、今後に向けて注意点をお伝えしておきます。

実際には適切な活動をしていても、活動日誌への記述の仕方で誤って受け取られるような記載はないでしょうか。先の説明では、ありがちなケースとして、ボランティアコーディネーターが、ボランティア不在の中で自らがボランティア活動をしているようなケースがあげられました。ボランティア自身がボランティア活動をしていると認められる報告があった際には、これまでも事実確認とともに事実に沿った記載にさせていただくことができました。

ボランティアコーディネーターの活動として認められるのは、ボランティアや外部講師・ゲストティーチャーを学校につないだり、コーディネートした方の活動を見守ったり、補佐したりすることになります。ほかに、地域人材の発掘、教師と地域の橋渡しなどもボランティアコーディネーターの重要な活動になります。

監査の際には、活動日誌の記載が重要な根拠になりますし、日誌の記載についての説明が求められます。ボランティアコーディネーターの活動とボランティアの活動の線引きはなかなか難しいというのが実情かもしれませんが、それだけに、要点を押さえた活動報告に努めていきたいものです。

【活動日誌の記載例】

- ① 「学校園を耕した」「児童の下校見守りをした」「読み聞かせをした」
→VC自身がボランティア活動をしたととられる
- ② 「コーディネートした地域ボランティアの学級園耕作に立ち会った」
→地域ボランティアの活動に立ち会っているので適切なVC活動
- ③ 「補習学習でドリルのマルつけをした」
→VC自身がボランティア活動をしたととられる
- ④ 「放課後学習ボランティアを割り振り、見守った」
→地域ボランティアの活動に立ち会っているので適切なVC活動
- ⑤ 「ゲストティーチャーを会場まで案内して、活動の流れを打ち合わせた」
→ゲストティーチャーをコーディネートしているので適切なVC活動
- ⑥ 「サマースクールの講座の講師をした」
→VC自身がボランティア活動をしたととられかねない。

シルバー人材センターの活用

ある小学校から「授業中の補助者をさがしているが、人材情報を提供してほしい」との要請がありました。学校支援センターではボランティア登録者をあたってみましたが、すぐには見つかりませんでした。そこでシルバー人材センターに問い合わせたところ、要請のあった学校で管理をしておられるシルバー会員の方が引き受けてくれるかもしれないとの情報を得ました。このことを学校に照会して数日後に、週に一回ほど学習補助に入ることになったという良い返事をいただきました。

このケースは、シルバー会員、シルバー人材センター、学校、学校支援センターの意向がすべてマッチしたことで成立できました。ご参考まで。